

国立成育医療研究センターにおける
基礎疾患を持つ小児への同時接種の実態
(国立成育医療研究センター齋藤明彦氏提供資料)



国立成育医療研究センターにおける 基礎疾患を持つ小児への 同時接種の実態

国立成育医療研究センター
感染症科
齋藤昭彦

-1-

背景

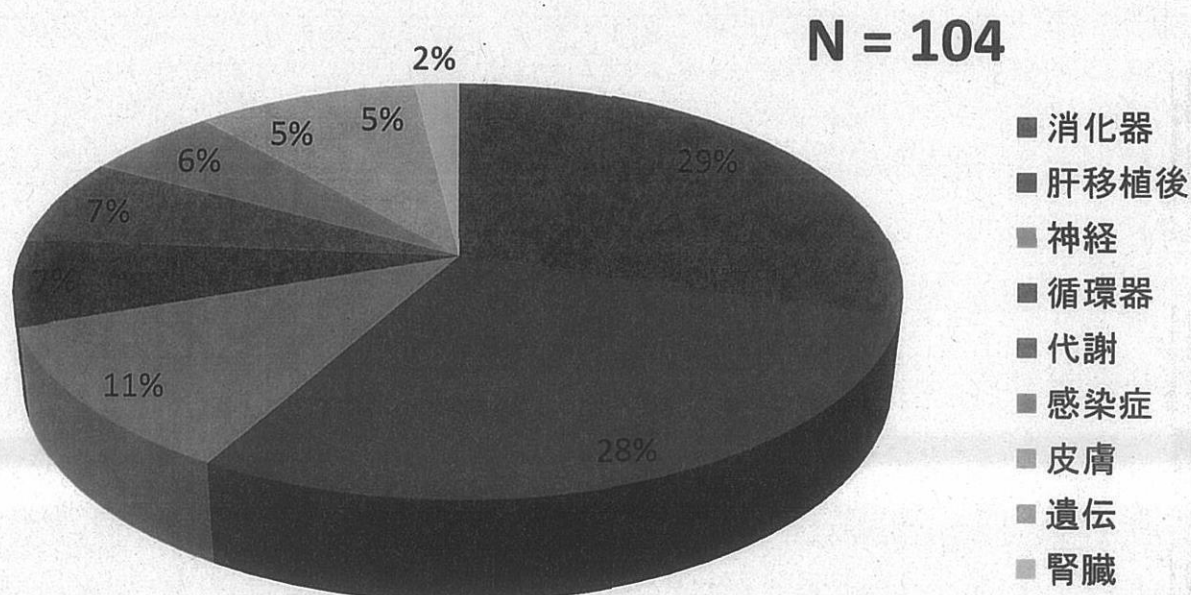
- 基礎疾患を持つ乳幼児患者は、その大半の時間を診断、治療などに費やすことが多く、予防接種可能な期間が限定されていることから、同時接種にて予防接種を効率的に行うことが必要である
- 当センターでは、予防接種の同時接種を積極的に行い、2007年12月からの集計では、全同時接種回数170接種、104名の症例に実施した

全患者の背景

- 104名、のべ170接種
- 性別: 男性42名(40%)、女性62名(60%)
- 年齢: 中央値 13ヶ月 (2ヶ月-17歳)
- 1人当たりの1回接種数: 中央値 3回 (2-7回)

-3-

全患者の基礎疾患



全患者の副反応、有害事象 (接種後28日まで)

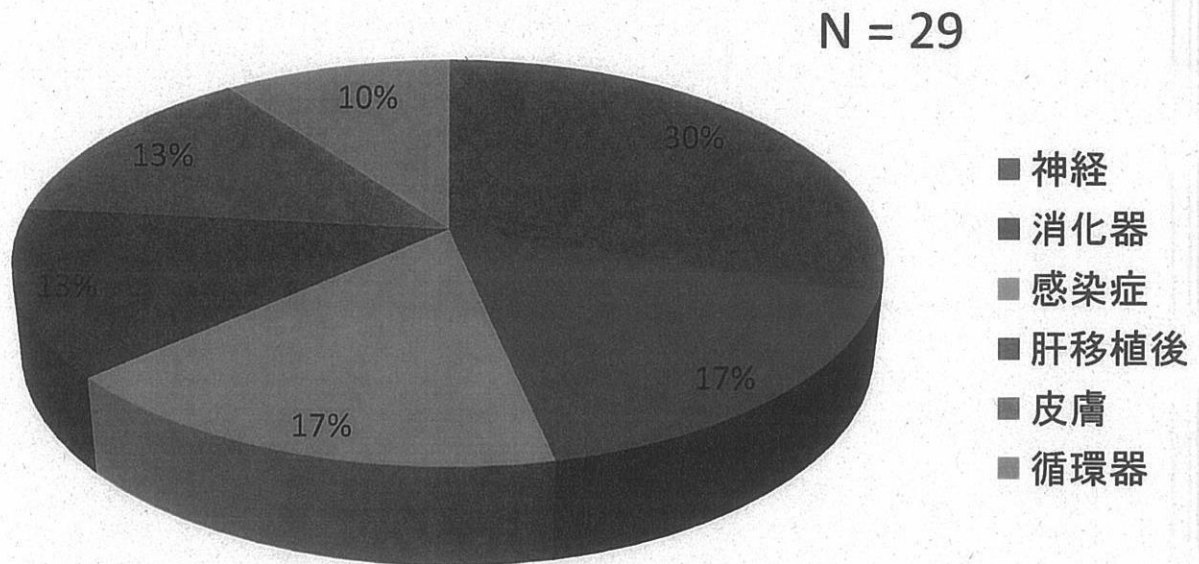
- 副反応 3件 (3/170, 1.7%)
 - 4歳9ヶ月女児、壊血病(栄養不良)
 - MR、水痘、ムンプスワクチンを同時接種
 - 接種後25日目に水痘発症(ワクチン株)
 - 軽症で自然経過(因果関係あり)
 - 1歳1ヶ月女児、気管支喘息、アトピー性皮膚炎
 - MR、ヒブ、肺炎球菌ワクチン
 - 接種翌日に局所の発赤、自然に軽快(因果関係あり)
 - 9ヶ月女児、胆道閉鎖症術後、肝移植前
 - MR、水痘、ムンプス、B型肝炎、日本脳炎、ヒブ、BCGワクチン
 - 接種6時間後に発熱、2日後に解熱(因果関係不明)
- 有害事象 1件 (1/170, 0.5%)
 - 2歳3ヶ月女児、肝移植後
 - ヒブ、肺炎球菌、B型肝炎ワクチン
 - 接種後4時間後に頻回の嘔吐、経過観察で改善(因果関係なし)

-5-

DPT+ヒブ+肺炎球菌ワクチンの 同時接種を行った患者

- 2009年2月から(肺炎球菌ワクチン発売後)
- 36接種(29症例)
- 年齢: 中央値 5ヶ月(3-40ヶ月)
- 性別: 男性16名(55%)、女性13名(45%)

DPT+ヒブ+肺炎球菌ワクチンの 同時接種を行った患者の基礎疾患の内訳



-7-

DPT+ヒブ+肺炎球菌ワクチンの 同時接種を行った患者

- 36接種(29人)
- 更なるワクチンの同時接種を5接種で行った
 - DPT + Hib + PCV7 + B型肝炎(2)
 - DPT + Hib + PCV7 + BCG(1)
 - DPT + Hib + PCV7 + インフルエンザ(1)
 - DPT + Hib + PCV7 + MR+水痘+B型肝炎(1)
- 接種後において、接種後28日までの
 - 有害事象なし
 - 副反応なし

ヒブワクチンとの同時接種 (Hib + DPT + PCV7を除く)

- 31接種(29人)
- 年齢: 中央値 24ヶ月(2-43ヶ月)
- 性別: 男性9名(31%)、女性20名(69%)
- Hib + PCV7 18接種(17人)
 - 更なるワクチンの同時接種を11接種で行った
Hib + PCV7 + MR (3)
Hib + PCV7 + インフルエンザ (3)
Hib + PCV7 + B型肝炎 (3)
Hib + PCV7 + インフルエンザ + B型肝炎 (1)
Hib + PCV7 + インフルエンザ + ムンプス + 水痘 (1)
- Hib + DPT 5接種(4人)
 - 更なるワクチンの同時接種を3接種で行った
Hib + DPT + B型肝炎 (1)
Hib + DPT + B型肝炎 + インフルエンザ (2)
- その他のワクチンとの同時接種 8接種(8人)

-9-

肺炎球菌ワクチンとの同時接種 (Hib + DPT + PCV7、Hib + PCV7を除く)

- 34接種(30人)
- 性別: 男性10名(33%)、女性20名(64%)
- 年齢: 中央値 31ヶ月(2-94ヶ月)
- PCV7 + DPT 15接種(13人)
 - 更なるワクチンの同時接種を6接種でおこなった
PCV7 + DPT + B型肝炎(3)
PCV7 + DPT + MR(2)
PCV7 + DPT + MR + ムンプス + 水痘 (1)
- その他のワクチンとの同時接種 19接種(17人)

PCV7、Hibを含んだ同時接種と 接種後28日までの副反応と有害事象

	接種総数	接種患者数	副反応	有害事象
DPT + PCV7 + Hib	36	29	0	0
DPT + PCV7	15	13	0	0
DPT + Hib	5	4	0	0
Hib + PCV7	18	17	2例(発熱、 局所の発赤)	1(嘔吐)
合計	74	63	2	1

-11-

考察

- 同時接種について既に分かっていること
 - 複数のワクチン(生ワクチンを含む)を同時に接種して、それぞれのワクチンに対する有効性について、お互いのワクチンによる干渉はない
 - 複数のワクチン(生ワクチンを含む)を同時に接種して、それぞれのワクチンの有害事象、副反応の頻度が上がることはない
 - 同時接種において、接種できるワクチン(生ワクチンを含む)の本数に原則制限はない

考察(1)

- 同時接種の利点
 - 各ワクチンの接種率が向上する
 - 子どもたちがワクチンで予防される疾患から早期に守られる
 - 保護者の経済的、時間的負担が減少する
 - 医療者の時間的負担が減少する

-13-

考察(2)

- 基礎疾患を持つ児への接種(米国小児科学会の推奨)
 - 特に禁忌がない限り、健常児と同様に接種されるべきである
 - 禁忌: 免疫に異常のある患者への生ワクチンの投与(ただし、HIV患者におけるMMRと水痘ワクチンは除く)